



曲名 Believe

杉本竜一 作詞・作曲
弓削田健介 編曲

この曲は！

1992年4月6日から2001年3月26日までNHK総合テレビで放送された「生きもの地球紀行」の3代目エンディングテーマとして誕生しました。世界中の海・山・大草原での魚・動物・昆虫たちの生命の営みを美しい映像とともに紹介していく番組として、多くの人に愛されました。ときには地球環境問題、動物たちが生きていくための厳しい環境、食物連鎖なども取り上げられました。同番組で1998年に発表された「Believe」は、人々の心を捉え、現在に至るまで、圧倒的な存在感をもって歌われています。合唱曲としても様々なアレンジがありますが、『キミウタ』では弓削田健介さんによる魅力あふれる混声三部合唱のアレンジでお届けします。特に間奏部分の「ラララ」、エンディングのF dur（ヘ長調）からAs dur（変イ長調）への転調は、このアレンジの美しさの醍醐味です。

藤原式練習法

- ・女声パートでは、主旋律と主旋律以外の部分がソプラノとアルトにも登場します。まずどこが主旋律で、どこが主旋律でないか、最初に意識しよう。
- ・女声パートは、女声全員がどちらのパートも歌えるようにして、それぞれのパートの動きの違い、交差するところや融合するところの面白みを見つけてください。
- ・男声パートを、女声も一緒に歌ってみよう。男声パートを全員で味わうと、混声合唱の深み、面白みが増してきます。
- ・ソプラノとアルトの比率は、アルトを多くしてみることをお勧めします。
- ・歌えるようになったら、ピアノ伴奏のスラーにマーカーで色を付けてみよう。歌い出しの9小節目には小さなスラーが2か所。そして10～11小節目のように、休符を挟む言葉と言葉の意識をつなげるようなスラーや、大きな2小節を感じるスラーもあります。そうするとスラーのないところにも明確な意識が生まれるでしょう。歌の基本はレガートです。

具体的なアドバイス・ポイント

- ①Messageを語るように、届けよう！
- ②ピアノ伴奏が両手ともに高音域にあるときは、優しく語る部分。ピアノ伴奏が中、低音域に移行したときは、深く語る部分です。
- ③ピアノ伴奏がリズムを刻み始めたら、しっかりと音を表現しよう。
- ④語尾の2分音符や付点2分音符の音の長さを正確に意識し、次の言葉やフレーズへつないでいき、歌いたい気持ち、エネルギーを高めていこう。
- ⑤24小節目からは「もう一人のピアニスト」と連弾!! 演奏者も聴衆も感動が高まる部分です。高らかに歌い上げてください。

この曲を 初めて歌う人に

メロディーを聴いたことがある人はきっと多いと思うので、思い切って高らかに歌ってみましょう。

表現を深めよう

表現を深めるということは想像力が必要です。

より感動的に 歌い上げるための アドバイス

しっかりと全パートの音やリズムが取れてきたら、ピアノを囲んで歌ったり、並び方をシャッフルして歌ったり、聴衆を包み込むイメージをもって歌ったり、効果的な振付を挿入したり、打楽器を加えたり、印象的なメロディにフルートなどを加えたりするなど、音楽の楽しみや可能性をいっぱい盛り込んでみてください。この曲のテーマは「信じる」。

『キミウタ』の中からコンサートの選曲をするとき、この曲集の中にある「地球」がテーマの曲や「生きること」の素晴らしさをテーマにした曲、「信じる」をテーマにした曲などを合わせて練習すると、さらに素敵な感動が訪れるでしょう。